２０２３年度

１月通常総会資料

一般社団法人田村青年会議所

【一般社団法人田村青年会議所　２０２３年度１月通常総会 資料】

目次

■２０２２年度事業報告
・２０２２年度 理事長活動報告 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２～３
・２０２２年度 副理事長活動報告 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・４～６
・２０２２年度 委員長活動報告 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・７～９
・２０２２年度 会務報告 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１０～１３
・２０２２年度 庶務報告 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１４～１７
・２０２２年度 定例会出欠報告 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１８
・２０２２年度 理事会出欠報告 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１９
・２０２２年度 出向者報告 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２０～２３
・２０２２年度 監事報告 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２４～２５
■２０２２年度決算報告
・２０２２年度 収支決算書 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２６
・正味財産増減計算書・貸借対照表・財産目録 ・・・・・・・・・・・２７
・監査報告書 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２８
■２０２３年度事業計画
・２０２３年度 理事長所信 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２９～３２
・２０２３年度 基本理念・基本方針・職務分掌 ・・・・・・・・・・・３３～３４
・２０２３年度 副理事長所信 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・３５～３６
(愛郷まちづくり委員会・ひとづくり委員会)
・２０２３年度 委員会事業計画 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・３７～４２
(愛郷まちづくり委員会・ひとづくり委員会・総務委員会)
・２０２３年度 組織図 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・４３
・２０２３年度 出向者 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・４４
・２０２３年度 会員・四役・理事 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・４５～４７
■２０２３年度収支予算書
・収支予算書 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・４８
■産休育休中の会費に関する規約変更
・定款一部変更の件 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・４９～５２

【一般社団法人田村青年会議所　２０２２年度　理事長活動報告】

「スローガン」

わくわくたむら

～愛を持って地域を語ろう～

一般社団法人田村青年会議所　第41代理事長　米谷　量平

「わくわくたむら～愛を持って地域を語ろう～」をスローガンとし、多くのメンバー、多くの地域の方々を巻き込みながら運動・活動を進めていこうと一年間まい進してまいりました。個人的には田村青年会議所のブランディングを意識した一年でありました。

まずは、これまで「四役会＆３委員会制」としてきた組織運営を「三役会＆４委員会制」に変更しました。前例踏襲ではない姿勢をＬＯＭメンバーに示す一つのきっかけになったのではないかと考えております。また、達成が叶いませんでしたが新たな情報共有ツールの導入や団体紹介パンフレットの作成についても委員会にて検討していただきました。情報共有ツールはコミュニケーションの量と質を上げることでメンバー間の絆を強めるためのものであり、団体紹介パンフレットの作成はメンバーに団体で活動する意味を改めて考えていただく機会になると思案しておりました。形にこそなりませんでしたが、検討する中において目的の一部を達成することができたのであれば幸甚です。

当団体がどのような団体なのかを知っていただく機会を創出しようと、「福島ブロック大会２０２４」の誘致活動に取り組みました。４月に公益社団法人日本青年会議所東北地区福島ブロック協議会の役員の皆様をお招きし、プレゼンテーションを行いました。７月２日の会員会議所会議にて福島県内１８ＬＯＭの理事長の皆様よりご承認を賜り、翌３日の福島ブロック大会２０２２ｉｎの記念式典にて認証状を拝受しました。今後の田村青年会議所の運動・活動の大きな目標になったと信じています。

田村圏がより良い地域として持続していくためには、「住み暮らす方々が能動的に挑戦し続ける」ことが鍵になると考えました。そのための第一歩として郷土愛を持ってもらうことが重要だと考え、田村圏の魅力を知ってもらう事業「食と伝統文化の祭典　たむら愛郷祭」を開催しました。農業生産者や飲食店、地元商工会青年部など３０を超える個人・企業・団体を巻き込み、また７０を超える企業協賛を頂戴し、管内３市町と多くの福島県内メディアの後援のもと事業を実施し、２５００名を超える皆様にご来場いただくことができました。この事業について公益社団法人日本青年会議所東北地区協議会主催の「ＡＷＡＲＤ　ＴＯＨＯＫＵ２０２２」にて東北地区協議会会長が地域に最もインパクトを与えた事業に贈る「会長特別賞」を拝受しました。ＬＯＭメンバーが多くの地域団体を巻き込み、多くの時間を割いた事業だけに大変嬉しく、そして田村青年会議所のブランディングとしても貴重なものとなりました。

地域の方々にこれまでの資本至上主義から新しい幸せの在り方を考えてもらいたいと、ｗｅｌｌ－ｂｅｉｎｇを広める事業に取り組みました。一般の方を巻き込んだセミナーを計２回開催し、幸せの捉え方やｗｅｌｌ－ｂｅｉｎｇを高める方法について学ぶことができた非常に有意義なものでした。大変悔しいところですが、２回の開催ともに一般の方の参加者が非常に少なく、聞きなじみのない言葉や概念を広く浸透させることの難しさを痛感しました。課題が多く残りましたが、ＬＯＭメンバーからの満足度は高く、ＬＯＭ内に考え方を浸透させることはできました。

組織力の強化で一番大切な会員拡大にも精力的に取り組みました。会員拡大の理念を学ぶスタートアップセミナーを実施後、異業種交流会を３回開催しました。毎月の例会や各種事業にもオブザーブいただく機会も増え、結果として７名の仲間が増えました。会員拡大を通してＬＯＭメンバー一人ひとりが団体に所属する意味や活動する理由を考えるきっかけとなり、ＪＣ運動・活動を前向きに取り組めるようになりました。

会員減少によるＬＯＭ収入の減少によって委員会予算が削られ、思い切った事業ができなくなる懸念がありました。今年度は補助金を活用するとともに、田村青年会議所ＯＢ会より追加支援、三春ロータリークラブとの事務委託契約なども取り付け、会費収入のほかの財源確保の道筋をつけることができました。

今年度は田村市総合計画審議委員をはじめ外部機関・団体と多くの接点をいただく機会にも恵まれました。三春、船引の両ロータリークラブ様には卓話の機会もいただき、日頃の活動を紹介いたしました。福島県男女共生のつどいや田村市国際交流協会主催イベントなどにも後援し、三春秋まつりにブースを出展するなど地域行事への参加も積極的に行いました。

田村青年会議所のブランディングを確立すべく、事業をはじめ多くの取り組みを実施してまいりました。年初以来、月日が経つにつれて「田村青年会議所は地域のために頑張っているね」「田村青年会議所さんにお願いしたいことがある」などと励ましの言葉や協力依頼をいただく機会が増えました。これもひとえにＬＯＭメンバーの皆様が同じ想いで行動し続けていただいたからこそ成し得たものであり、感謝の念に堪えません。皆様の行動により２０２２年度は様々なことを前向きに取り組み、多くの成果を残すとともに、課題も見えた一年だったと感じております。田村青年会議所が地域に求められ続ける団体として今後も末永く続くよう次年度以降も歩みを進めていただけることを期待いたします。一年間お世話になりました。

【一般社団法人田村青年会議所　２０２２年度　副理事長活動報告】

担当委員会：会員拡大委員会　副理事長　勝山　修二

会員拡大は常に必須で、毎年会員全員での勧誘を行ってきましたが、新型コロナウイルスのパンデミックによる影響もあり入会者が少なく、会員が年々減少することから、２０２２年は会員拡大委員会を設置し、担当副理事長を務めさせていただきました。

会員拡大委員会では、２月の担当例会で会員向けに会員拡大のセミナーを実施し、会員拡大の重要性、同じ志を持つ仲間を増やすための手法などを学び、一年を通し田村圏内の三春町、小野町、田村市の三ヶ所での異業種交流会を開催させていただきました。開催にあたり先ずは集客数の確保にとても苦労しましたが、参加者には改めて田村青年会議所の運動・活動に理解をしていただく素晴らしい時間となりました。１１月には、今年の入会者で創り上げるはじめての例会を実施し、議案作成に例会の設えまでを体験していただき、会議や準備の重要性を知ってもらう機会となりました。年初は私と玄葉委員長の 2 名での委員会スタートでしたが、入会者が委員となり、玄葉委員長をはじめ、委員会メンバー一丸となって青年会議所の熱い想いを対外に伝えた１年となりました。

最後に、ご指導してくださった米谷理事長をはじめと致します会員の皆様、そして一人でも多くの入会者を増やそうと常に試行錯誤した玄葉委員長、入会したばかりなのに一生懸命委員会運動・活動に理解し協力してくださった委員メンバーの皆様、一年間ありがとうございました。

担当委員会：愛郷まちづくり委員会　副理事長　桑原　直人

２０２２年度愛郷まちづくり委員会では「愛郷心」をテーマに、メイン事業たむら愛郷祭を開催することができました。会場は三春の滝桜駐車場にて開催し、飲食ブース、物販ブースなどたくさんのブースを設けました。さらにステージイベントでも愛郷心を掘り起こすために伝統文化発信の場を設け、盛沢山な内容の事業でした。私自身も初めて目にする伝統文化や、飲食業さんと生産者さんのコラボブースなど、この事業を展開している田村青年会議所の今後に運営側としても参加者としても「わくわく」する内容だったと思います。村上真彦委員長が熱中症に倒れたときは「ひやひや」でしたが、委員長という責任ある立場と頑張って向き合った結果だと思います。

米谷量平理事長が掲げた２０２２年度スローガン「わくわくたむら～愛を持って地域を語ろう～」たむら愛郷祭は、まさにこのスローガン通りの事業だと感じました。私見で恐縮ではありますが、これからも地域の皆様と「地域」について愛を持ってわくわくしながら地域を語る青年の団体であること、強いリーダーシップで地域の皆様を巻きこむ台風の目の

ような役割を願っております。

たくさんのご指導頂きました米谷量平理事長をはじめとする会員の皆様、村上真彦委員長をはじめとする委員会メンバーの皆様のおかげ様をもちまして、２０２２年度副理事長という重い責務を全うできたと実感しております。本当に１年間ありがとうございました。

最後になりますが、２０１８年度に入会させて頂き２０２２年度までの５年間、本当にたくさんの事を学ばせて頂きました。いつの間にか私にとって田村青年会議所は、かけがえのない大切な団体となっていました。私は２０２２年度卒業となりますが、いままで関わって頂いた会員全ての皆様に感謝を申し上げたいと思います。本当にありがとうございます。

最後に一言だけ、青春をありがとう！田村青年会議所ブラボー！！（２０２２年度サッカーワールドカップ長友佑都名言）

担当委員会：ひとづくり委員会　副理事長　橋本　隆亮

２０２２年度ひとづくり委員会では、「ｗｅｌｌ－ｂｅｉｎｇ」の概念をＬＯＭメンバーのみならず田村圏の住み暮らす人々に普及させることを目標に活動してまいりました。ｗｅｌｌ－ｂｅｉｎｇは、幸福度を示す比較的新しい指標として世界的にも注目されており、プライベートのみならずビジネスにも活きてくるものと考えられています。

この１年間に委員会が実施した事業の内容は横田委員長が行うと思いますので割愛しますが、ｗｅｌｌ－ｂｅｉｎｇに関するセミナーやグループワークを通して、メンバー間のリレーションシップ（関係性）は少なからず向上したと思います。また、相手を思いやるかたちでの会話の習得は、ＬＯＭ内のみならず、家庭や友人関係、職場においてもプラスになるのではないかと思います。課題を挙げるならば、新しい概念を地域住民に普及させることの難しさです。セミナーでは非常に有意義な時間を過ごすことができ、メンバー個々に新しい学びを得ることができましたが、そこに地域住民の関心を寄せるためには、もう少し工夫が必要であったと痛感しました。本来であれば、副理事長である私が広報に関する有効な手法を指南できればよかったのですが、力になれなかった点が反省点です。この経験は次年度に活かしていきたいと思います。

今年１年間、非常に出席率の高い、充実した委員会を開催することができました。委員会を引っ張ってくれた横田委員長、そして積極的に委員会に参加してくれた委員会メンバーにおいては、１年間ありがとうございました。そして、何よりｗｅｌｌ－ｂｅｉｎｇという概念は、恥ずかしながら米谷理事長に教えていただかなければ出会っていない言葉でした。委員会として結果は振るわずの部分がありましたが、素晴らしい概念を教えていただき、またその担いを頂戴したことに心から感謝申し上げ、１年間の報告とさせていただきます。

担当委員会：総務委員会　副理事長　橋本　元太

２０２２年度総務委員会の担当副理事長を務めさせていただきました。本年度総務委員会は総会例会の設営、卒業式の設営のほか、コロナウイルス感染症により近年自粛していたクリスマス家族会を開催でき感染対策の徹底、会場の間取りやタイムスケジュールを工夫して開催後も感染者は出ることのなく無事終了できたことは次年度への明るい報告になったと思います。あわせて１月例会についてはＺＯＯＭでの開催になりましたが１００％出席となりこちらは２０１９年ぶりとなりました。直前までリアル開催を計画しておりましたがＺＯＯＭ開催になったことは心残りではあります。

最後に１００％例会を目指し達成した石井委員長をはじめ委員会メンバーの皆様、一年間大変お世話になりました。ありがとうございました。

【一般社団法人田村青年会議所　２０２２年度　委員長活動報告】

担当委員会：会員拡大委員会　委員長　玄葉　俊行

２０２２年度会員拡大委員会では、「仲間と未来を切り拓く会員拡大」をスローガンに田村青年会議所の想いを地域住民に伝えるために多くの方に参加していただきながら想いを拡げる運動を行って参りました。２月には公益社団法人日本青年会議所共創グループ会員発掘会議議長鈴木一成君を招き、理念共感型会員拡大セミナーを実施しました。会員拡大の成功のためにはこの地域や住民への想いを伝えることの重要性をメンバー全員で共有を深めることができました。その想いを胸に、たむらけん異業種交流会を３月、５月、１０月に開催しました。新型コロナウイルスの影響もあり残念ながら参加を見合わせた方もいらっしゃいましたが、のべ５５名の方にご参加いただきいただくことができました。地域住民とＪＣメンバーが交流しながら、この地域の未来を語り合う機会を創出することで地域住民の方々が青年会議所に求めていることや激励の言葉をいただくことができる機会となりました。１１月にはたむらけん異業種交流会を経て入会したメンバーを中心に、はじめてのれいかい事業を開催しました。事業御立案から資料作成、報告までを一貫して行い、次年度以降田村青年会議所の中心として活躍できる人財の育成を行うことができました。

一年間を通し、地域の方々が参加できる事業を実施することができました。これもひとえに、担当副理事長の勝山修二君を始め、委員会メンバーや、会員拡大アドバイザーの佐藤高行君から多大なる協力がなければ成しえることはできませんでした。多くの方に支えられながら素晴らしい経験をさせていただいたことに感謝しております。次年度は愛郷まちづくり委員会の委員長の担いをお預かりしました。２年連続の委員長職をお預かりしましたので、今年度の経験をさらにＬＯＭに還元できるよう邁進いたします。

頼りない委員長ではありましたが、一年を通しお支えいただいた米谷理事長をはじめとするＬＯＭメンバーの皆様、一年間ありがとうございました。

担当委員会：愛郷まちづくり委員会　委員長　村上　真彦

２０２２年度愛郷まちづくり委員会では田村圏を今年度スローガンでもある「わくわくたむら」な地域にするため活動してまいりました。はじめての委員長、はじめての理事会、はじめての議案書、当初は何も分からないことばかりで困惑しましたが、米谷理事長の想いを形にするため私自身の社業ともリンクさせ、飲食店と生産者のコラボイベント、田村の伝統芸能や子供たちの活動を田村圏内外の多くの方に、その魅力を伝えるための「たむら愛郷祭」を開催することができました。

企画立案から実行委員会設置、多くの出展者の方々にイベント開催の想いを伝え、一人ひ

とりの賛同を得ることができ、とても嬉しく感じた半面、委員長としての想いをメンバー全員に伝えることができなかったことや進め方が分からず結局は一人で背負うことになり疲弊してしまったこと、事業開催まで多くの困難がありましたが、地域の方々に田村の魅力や新たな価値を伝えることができたと感じます。無事開催することができたのも、田村青年会議所メンバーや多くのボランティアスタッフ、協力出展企業様、OB の方々のお力添えがあったからだと思います。

青年会議所での活動を通じ、自分自身の成長はもとより地域の方々と今まで以上に交流を持てたことで新たな世界が拡がり、これからの人生の財産になったと感じます。今年度は充実したとても濃い一年間でしたが、この経験を次年度以降の青年会議所活動に活かし、また一回り二回り成長していきたいと思います。

私を委員長として任命してくださった米谷理事長をはじめ、メンバーの皆様、一年間本当に有難うございました。

担当委員会：ひとづくり委員会　委員長　横田　涼

２０２２年度ひとづくり委員会では、「幸福を高める新しい学びの実践」をスローガンに、身体的、精神的、社会的に幸福であることを意味する「ｗｅｌｌ－ｂｅｉｎｇ」の考え方を学んでいこうと一年間努めてまいりました。

３月には株式会社 YeeY クリエイティブディレクターの宮澤大樹氏を講師に迎え、「ｗｅｌｌ－ｂｅｉｎｇを高める生き方・働き方とは」と題した一般公開セミナーの開催、６月にはｗｅｌｌ－ｂｅｉｎｇを高める実践学習として、リレーションシップを高めるワークやお互いの好きなこと嫌いなことを話し合って幸福感を高める会員向けワークショップの開催、９月には株式会社商工組合中央金庫の山川泰介氏を講師に迎え、「企業成長のためのｗｅｌｌ－ｂｅｉｎｇ経営とは？」をテーマとした一般公開セミナーを開催しました。

一年間に３つの事業を行い感じたことは、「ｗｅｌｌ－ｂｅｉｎｇ」という言葉が世間的にまだまだ浸透していないこと、馴染みのない物事を地域に普及させることの大変さを改めて実感しました。

スローガンで掲げた「幸福」に加え、青年会議所で今後運動を展開していくにあたって必要なエッセンスも学ぶことができた一年間となりました。

担当委員会：総務委員会　委員長　石井　聡一

２０２２年度総務委員会では「多くの機会を掴む組織づくり」をスローガンとして、メンバー一人ひとりが自己の成長はもちろんのこと、例会や事業に参加しやすい環境づくりを

目指し、１年間取り組んできました。

２０２２年度も新型コロナウイルス感染症の影響により、度々、開催手法の変更が余儀なくされる場面もありましたが、委員会で対応を協議し、１月例会及び通常総会ではオンライン開催とし１００％例会を達成したほか、１２月例会・卒業式・クリスマス家族会ではポストコロナを見据え、感染症対策を徹底した上で実地開催とするなど状況に応じて臨機応変に対応できました。

このほか、会員一人ひとりがそれぞれの個性を認識し、会員が互いに知る機会を増やし、積極的に情報の共有を図ることを目的に新たな共有ツールの導入を目指しておりましたが、満足な成果を残すことができなかったことは心残りであります。

これまでにない手法や考え方を持ち、手探りで進める１年間でしたが、委員会メンバーをはじめ、多くの方々のご協力をいただきながら全うすることが出来ました。

この１年間で学び得た知識や経験を次代へ継承するとともに、自身の成長の糧としてさらに精進してまいります。

理事長はじめメンバーの皆様、１年間誠にありがとうございました。

一般社団法人田村青年会議所　2022年度会務報告

1月	1日		2月	1日		3月	1日	
	2日			2日			2日	
	3日			3日			3日	
	4日			4日	会員会議所会議		4日	会員会議所会議 福島ブロック大会主催主管締結式
	5日	事務所開き		5日	新春の集い		5日	
	6日			6日			6日	
	7日			7日			7日	第3回三役会
	8日			8日	第2回三役会		8日	
	9日	青森JC新年会		9日			9日	
	10日			10日			10日	ひとづくり委員会
	11日	三春町長、OB会長新年挨拶 第１回三役会		11日			11日	
	12日			12日			12日	
	13日	総務委員会		13日			13日	会員拡大委員会
	14日	県南エリア会議、田村市長新年挨拶、愛郷まちづくり委員会		14日	総務委員会		14日	
	15日			15日	第2回理事会		15日	
	16日			16日			16日	愛郷祭実行委員会
	17日	郡山JC新年会 ひとづくり委員会		17日			17日	
	18日	会員拡大委員会 新年会実行委員会		18日	愛郷祭実行委員会		18日	
	19日			19日			19日	3月例会
	20日			20日			20日	
	21日			21日			21日	
	22日			22日	2月例会		22日	第3回理事会
	23日			23日			23日	総務委員会
	24日			24日			24日	県南エリア会議
	25日	第１回理事会		25日			25日	たむらけん異業種交流会
	26日			26日			26日	日本青年会議所170回総会
	27日	二本松JC新年会		27日			27日	
	28日	白河JC新年会		28日			28日	
	29日	1月例会・通常総会					29日	
	30日						30日	
	31日						31日	

一般社団法人田村青年会議所　2022年度会務報告

4月	1日		5月	1日		6月	1日	
	2日			2日			2日	
	3日			3日			3日	
	4日			4日			4日	
	5日	第4回三役会		5日			5日	
	6日			6日			6日	ひとづくり委員会
	7日	会員会議所会議		7日	会員会議所会議		7日	
	8日			8日			8日	
	9日	質的価値社会委員会		9日			9日	
	10日	質的価値社会委員会		10日	第5回三役会		10日	
	11日	会員拡大委員会		11日			11日	
	12日			12日			12日	JCカップ
	13日			13日	会頭公式訪問、会員拡大委員会 ひとづくり委員会		13日	
	14日	2024年度ブロック大会 立候補地プレゼン		14日			14日	
	15日			15日			15日	
	16日			16日			16日	
	17日			17日			17日	
	18日			18日	第5回理事会		18日	
	19日	第4回理事会		19日			19日	
	20日			20日			20日	第6回理事会
	21日	第4回例会		21日	5月例会 たむらけん異業種交流会		21日	県南エリア会議
	22日			22日			22日	6月例会
	23日			23日			23日	田村青年会議所OB会総会
	24日			24日			24日	
	25日			25日			25日	
	26日			26日			26日	
	27日			27日			27日	会員拡大委員会
	28日			28日			28日	
	29日			29日			29日	
	30日			30日			30日	
				31日				

一般社団法人田村青年会議所　2022年度会務報告

7月	1日		8月	1日		9月	1日	会員会議所会議
	2日	福島ブロック大会		2日			2日	
	3日	福島ブロック大会		3日			3日	
	4日			4日			4日	東北青年フォーラムin栗原
	5日	第7回三役会		5日			5日	
	6日			6日			6日	第9回三役会
	7日			7日			7日	
	8日	愛郷祭実行委員会		8日			8日	
	9日			9日	第8回三役会		9日	
	10日			10日			10日	
	11日			11日			11日	
	12日	愛郷祭実行委員会 ひとづくり委員会		12日			12日	会員拡大委員会
	13日			13日			13日	9月例会 臨時理事会
	14日			14日			14日	
	15日	東北地区ナイト		15日			15日	
	16日	サマーコンファレンス2022		16日			16日	
	17日	サマーコンファレンス2022		17日	会員拡大委員会		17日	
	18日			18日	県南エリア会議		18日	
	19日	7月例会 第7回理事会		19日			19日	
	20日			20日			20日	県南エリア会議
	21日			21日			21日	
	22日	たむら愛郷祭事前準備		22日			22日	
	23日	たむら愛郷祭事前準備		23日	第8回理事会		23日	
	24日	たむら愛郷祭		24日	8月例会 通常総会		24日	
	25日	たむら愛郷祭撤収作業		25日			25日	
	26日			26日			26日	
	27日			27日			27日	第9回理事会
	28日	会員拡大委員会		28日			28日	
	29日			29日			29日	
	30日			30日			30日	
	31日			31日	たむらけん異業種交流会			

一般社団法人田村青年会議所　2022年度会務報告

10月	1日		11月	1日		12月	1日	総務委員会
	2日			2日			2日	総務委員会 東北地区会員会議所会議
	3日	会員会議所会議		3日			3日	12月例会・卒業式 クリスマス家族会
	4日			4日			4日	
	5日	第10回三役会 第1回次年度四役会		5日	三春秋祭り		5日	
	6日			6日	三春秋祭り		6日	
	7日	全国大会in大分		7日			7日	
	8日	全国大会in大分		8日	第11回三役会 第2回次年度四役会		8日	ひとづくり委員会
	9日	全国大会in大分		9日			9日	愛郷まちづくり委員会
	10日			10日			10日	
	11日	たむらけん異業種交流会 総務委員会		11日	11月例会		11日	
	12日			12日			12日	
	13日	ひとづくり委員会		13日			13日	
	14日			14日			14日	第12回三役会 第3回次年度四役会
	15日			15日			15日	
	16日			16日	県南エリア会議		16日	
	17日			17日			17日	
	18日			18日			18日	
	19日			19日			19日	
	20日	まちづくり委員会 県南エリア会議		20日			20日	会員拡大委員会
	21日	第10回理事会 第1回次年度理事会		21日			21日	
	22日			22日	第11回理事会 第2回次年度理事会		22日	
	23日			23日			23日	第12回理事会 第3回次年度理事会
	24日			24日			24日	
	25日	会員拡大委員会		25日			25日	
	26日			26日			26日	事務局納め
	27日			27日	会員会議所会議 福島ブロック卒業式		27日	
	28日			28日			28日	
	29日	会員会議所会議		29日			29日	
	30日			30日			30日	
	31日						31日	

一般社団法人田村青年会議所　２０２２年度　庶務報告

【 理 事 会 】

■第１回理事会　２０２２年1月２５日（火）午後７時００分　於：ＺＯＯＭ

第１号議案　　２０２２年度理事長所信（案）について
第２号議案　　２０２２年度基本理念及び基本方針（案）について
第３号議案　　２０２２年度事業計画（案）について
第４号議案　　２０２２年度職務分掌（案）について
第５号議案　　２０２２年度組織図（案）について
第６号議案　　２０２２年度会員拡大委員会副理事長所信（案）について
第７号議案　　２０２２年度会員拡大委員会事業計画（案）について
第８号議案　　２０２２年度愛郷まちづくり委員会副理事長所信（案）について
第９号議案　　２０２２年度愛郷まちづくり委員会事業計画（案）について
第１０号議案　２０２２年度ひとづくり委員会副理事長所信（案）について
第１１号議案　２０２２年度ひとづくり委員会事業計画（案）について
第１２号議案　２０２２年度総務委員会副理事長所信（案）について
第１３号議案　２０２２年度総務委員会事業計画（案）について
第１４号議案　２０２２年度１月例会事業計画並びに予算（案）について
第１５号議案　２０２２年度１月通常総会事業計画並びに予算（案）について
第１６号議案　２月例会及び会員拡大セミナー事業計画並びに予算（案）について

１６議案全て可決

■第２回理事会　２０２２年2月１５日（火）午後７時００分　於：ＺＯＯＭ

第１号議案　たむらけん異業種交流会（三春開催）事業計画並びに予算（案）について
第２号議案　３月例会及び「well-being セミナー」事業計画並びに予算（案）について

２議案全て可決

■第３回理事会　２０２２年3月２２日（火）午後７時００分　於：事務局

第１号議案　１月通常総会事業計画並びに補正予算（案）について
第２号議案　１月例会事業報告並びに決算（案）について
第３号議案　１月通常総会事業報告並びに決算（案）について
第４号議案　２月例会及び会員拡大セミナー事業報告並びに決算（案）について
第５号議案　４月例会事業計画並びに予算（案）について
第６号議案　２０２４年度福島ブロック大会誘致について

６議案全て可決

■第４回理事会　２０２２年4月１９日（火）午後７時００分　於：事務局

第１号議案　３月例会及び「well-being セミナー」事業報告並びに決算（案）について
第２号議案　５月例会及びたむらけん異業種交流会（小野開催）事業計画並びに予算（案）について

２議案全て可決

■第５回理事会　２０２２年５月１８日（水）午後７時００分　於：事務局

第１号議案　４月例会及事業計画並びに決算（案）について
第２号議案　たむらけん異業種交流会（三春開催）事業報告並びに決算（案）について
第３号議案　６月例会及び well-being ワークショップ事業計画並びに予算（案）について
第４号議案　２０２３年度理事長・監事候補者選出委員会と選挙管理委員会の設置計画並びに予算（案）について

４議案全て可決

■第６回理事会　２０２２年６月２０日（月）午後７時００分　於：事務局

第１号議案　５月例会及びたむらけん異業種交流会（小野開催）事業報告並びに決算（案）について
第２号議案　７月例会事業計画並びに予算（案）について
第３号議案　佐藤隆介君新入会員承認（案）について

３議案全て可決

■第７回理事会　２０２２年７月１９日（火）午後７時００分　於：事務局ん

第１号議案　８月例会事業計画並びに予算（案）について
第２号議案　８月通常総会事業計画並びに予算（案）について
第３号議案　たむらけん異業種交流会（田村開催）事業計画並びに予算（案）について
第４号議案　一般社団法人田村青年会議所たむら愛郷祭にかかる運営資金の支出について
第５号議案　荒井夢子君新入会員承認（案）について

５議案全て可決

■第８回理事会　２０２２年８月２３日（火）午後７時００分　於：事務局

第１号議案　８月通常総会事業修正計画並びに修正予算（案）について
第２号議案　９月例会及び「well-being セミナー」（案）について
第３号議案　６月例会及び well-being ワークショップ事業報告並びに決算（案）について
第４号議案　７月例会事業報告並びに決算（案）について

４議案全て可決

■第９回理事会　２０２２年９月２７日（火）午後７時００分　於：ＺＯＯＭ

第１号議案　１０月例会及び「たむら愛郷祭」課題解決ワークショップ並びに予算（案）について
第２号議案　たむらけん異業種交流会（田村開催）事業計画修正並びに予算（案）について
第３号議案　村田憲一君新入会員承認（案）について

３議案全て可決

■第１０回理事会　２０２２年１０月２１日（火）午後７時００分　於：事務局

第１号議案　１１月例会及びはじめての例会「私にとってＪＣとは」事業計画並びに予算（案）について
第２号議案　１２月例会及び卒業式事業計画並びに予算（案）について
第３号議案　９月例会及び「well-being セミナー」事業報告並びに決算（案）について

３議案全て可決

■第１１回理事会　２０２２年１１月２２日（火）午後７時００分　於：事務局

第１号議案　８月例会事業報告並びに決算（案）について
第２号議案　８月通常総会事業報告並びに決算（案）について
第３号議案　たむらけん異業種交流会（田村開催）事業報告並びに決算（案）について
第４号議案　１０月例会及び「たむら愛郷祭」課題解決ワークショップ事業報告並びに決算（案）について

４議案全て可決

■第１２回理事会　２０２２年１２月２３日（金）午後６時００分　於：事務局

第１号議案　１１月例会及びはじめての例会「私にとってＪＣとは」事業報告並びに決算（案）について
第２号議案　１２月例会及び卒業式事業報告並びに決算（案）について
第３号議案　永井寛人君新入会員承認（案）について
第４号議案　鈴木啓太君新入会員承認（案）について
第５号議案　添田麻美君新入会員承認（案）について
第６号議案　門沢豪君退会承認（案）について
第７号議案　産休育休中の会費に関する規約変更（案）について

７議案全て可決

【 総　会 】

■１月通常総会　２０２２年1月２９日（土）午後６時００分　於：ＷＥＢ開催

第１号議案　２０２１年度 事業報告承認の件

第２号議案　２０２１年度 収支決算承認の件
第３号議案　２０２２年度 事業計画（案）承認の件
第４号議案　２０２２年度 収支予算（案）承認の件

■８月通常総会　２０２２年８月２４日（水）午後７時３０分　於：迎賓館辰巳屋

第１号議案　２０２３年度 役員人事（案）承認の件

一般社団法人田村青年会議所　２０２２年度例会出席報告

※例会出席率の算出に総会出席は入りません

	役職等	氏　名	１月例会	２月例会	３月例会	４月例会	５月例会	６月例会	７月例会	８月例会	９月例会	１０月例会	１１月例会	１２月例会	出席率
1	理事長	米谷量平	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	100%
2	直前理事長	白石正広	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○	17%
3	副理事長	橋本隆亮	○	○	○	○	×	○	×	×	×	×	×	○	50%
4	副理事長	橋本元太	○	×	×	○	○	×	○	○	○	○	×	○	67%
5	副理事長	勝山修二	○	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	92%
6	副理事長	桑原直人	○	○	○	○	○	○	○	×	×	○	×	○	75%
7	専務理事	村田将一	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	100%
8	理　事	横田　涼	○	○	○	○	×	○	○	○	○	○	○	×	83%
9	理　事	菅野隆之	○	○	×	○	×	○	○	○	○	×	○	○	75%
10	理　事	玄葉俊行	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	100%
11	理　事	村上真彦	○	○	×	○	○	○	○	○	○	○	○	×	83%
12	理　事	石井聡一	○	○	○	○	×	×	○	○	○	○	○	○	83%
13	委　員	本田康朗	○	×	×	×	×	○	○	○	○	○	×	○	58%
14	委　員	渡邉大輔	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○	17%
15	委　員	中野泰介	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○	×	17%
16	委　員	富山和明	○	×	○	○	×	○	○	○	○	○	○	○	83%
17	委　員	武藤友紀	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	0%
18	委　員	三　浦　聡	○	×	×	×	×	×	×	○	×	×	×	○	25%
19	委　員	門　沢　豪	○	×	○	○	×	×	○	×	×	×	×	×	33%
20	委　員	石川陽二郎	○	×	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	17%
21	委　員	杉内海斗	○	○	×	×	×	○	○	×	×	×	×	×	33%
22	委　員	舞　木　光	○	○	○	○	○	○	×	×	○	○	○	×	75%
23	委　員	石井孝征							×	×	×	×	×	×	0%
24	委　員	佐藤隆介								×	×	×	×	○	8%
25	委　員	荒井夢子								○	○	○	○	×	8%
26	委　員	村田憲一										○	○	○	33%
27	外部監事	箭内貴之	○	×	○	○	×	○	×	○	○	○	○	○	75%
28	外部監事	吉田典史	○	×	×	○	○	○	○	○	○	×	○	○	75%
29	外部監事	鈴木浩彰	○	○	×	○	×	×	○	×	○	×	○	○	58%
出席合計人数(外部監事含む)			24	12	13	18	9	15	16	15	16	15	16	19	

一般社団法人田村青年会議所　2022年度理事会出欠一覧

No.	役　職	氏　名	第01回	第02回	第03回	第04回	第05回	第06回	第07回	第08回	第09回	第10回	第11回	第12回	出席率 (臨時含まず)	備考
1	理 事 長	米谷　量平	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	100　%	
2	直前理事長	白石　正広	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	8　%	
3	副理事長	橋本　隆亮	1	1	1	1	1	1	1	0	0	0	1	1	75　%	
4	副理事長	橋本　元太	0	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	92　%	
5	副理事長	勝山　修二	0	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	92　%	
6	副理事長	桑原　直人	1	0	1	0	1	1	1	1	1	1	1	1	83　%	
7	専務理事	村田　将一	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	100　%	
8	理　　事	横田　涼	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	100　%	
9	理　　事	菅野　隆之	1	0	1	1	1	1	1	1	1	0	1	0	75　%	
10	理　　事	玄葉　俊行	1	1	1	1	1	1	1	0	1	0	1	1	83　%	
11	理　　事	村上　真彦	1	1	1	1	1	1	1	1	1	0	1	1	92　%	
12	理　　事	石井　聡一	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	100　%	
13	外部監事	箭内　貴之	0	1	1	1	1	1	0	1	1	0	1	1	75　%	
14	外部監事	吉田　典史	1	0	0	1	1	0	1	1	1	1	1	1	75　%	
15	外部監事	鈴木　浩彰	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	100　%	
	理事出席　計（12名中）		10	9	11	10	11	11	11	9	10	7	11	10		

【一般社団法人田村青年会議所　２０２２年度　出向者報告】

公益社団法人日本青年会議所
経済グループ　質的価値社会委員会　　副委員長　玄葉　俊行

当委員会では、質的価値に着目した事業を中小企業や各種団体に実装させると共に、その取り組みを加速化することを目的に各地の質的価値に着目した商品やサービス、取り組みに磨きがかかり、地域社会を盛り上げている状態を目指し一年間活動を行いました。質的価値とは「地域の力×人の力×共感」の仕組みを作ることでストーリー性の存在するモノやサービスを受ける側が、その地域や人の新たな一面に気づかされることで、共感が自然発生し、マネタイズへと向かう価値のことと定義づけしたものとなります。京都会議にて質的価値実践ワークショップ、サマコンにて第６回価値デザインコンテストを開催することができました。また、各地の取り組みを独自のＨＰとして企業支援プラットフォームを作り、ＨＰ内で各地の事例を発信することでＪＣメンバーへの共有を行いました。田村圏内からは廃材を活用し、ワッフルやフルーツハーブティーへアップサイクルを実現し、キッチンカーで販売を行っているＫｏｋａｇｅ　Ｋｉｔｃｈｅｎ代表の大島草太氏の活動を質的価値事例として掲載するなど、合計２８件の事例を共有することができました。

私は推進事業を担当する副委員長としてすべての事業に関わりながら、運動の推進に携わらせていただきました。正直に申し上げて、ＪＣＩ日本の副委員長の担いは想像以上に過酷なものでありました。しかし、行っている事業はとても魅力的であり、頑張れば頑張るほど日本全国の委員会メンバーとの親睦は深まり、各地に一生涯の友人を作ることができました。この経験は間違いなく、私にとってとても大きな財産となりました。米谷理事長をはじめとします、メンバーの皆様には出向の機会をいただき誠にありがとうございました。今回の経験を今後必ずＬＯＭへ還元することをお約束し、出向のご報告とさせていただきます。

公益財団法人日本青年会議所
経済グループ質的社会委員会　　委員　菅野　隆之

今年度、公益社団法人日本青年会議所経済グループ質的社会委員会に出向させていただきました菅野です。私自身出向の経験はありませんでしたが、日本の委員会でどのような活動をしているのか興味があったことと、同委員会に副委員長で出向している玄葉副委員長のお力に少しでもなれればと思い出向させていただきました。出向を認めていただいた米谷理事長を初めＬＯＭのメンバーの皆さまには感謝の気持ちで一杯です。ありがとうございました。

さて、私が出向させていただいた質的価値社会委員会では主にＥＳＧ投融資について担

当させていただきました。ＥＳＧとはｅｎｖｉｒｏｎｍｅｎｔａｌ（環境）、ｓｏｃｉａｌ（社会）、ｇｏｖｕｅｒｎａｎｃｅ（企業統治）の頭文字を取ったもので、企業が長期的に成長するためには、経営においてＥＳＧの３つの観点が必要だという考え方です。日本でも近年ＥＳＧについて注目されており、私の所属した小委員会ではＥＳＧに取り組んでいる企業からヒアリングを行い、企業支援プラットフォームに具体的事例を掲載しました。私がまとめた内容はとても稚拙で玄葉副委員長には大変ご迷惑をおかけしてしまいましたが、貴重な経験をさせていただきました。

今回このような機会をいただきまして誠にありがとうございました。この経験を今後の自分自身の行動に活かして参ります。

公益社団法人日本青年会議所
共創グループ　アワード委員会　　委員　橋本　元太

今年度は日本青年会議所のアワード委員会に出向させていただきました。

３年連続での日本青年会議所への出向となりましたが２年前に出向したロールモデル推進委員会がアワード委員会となったため懐かしさとどのように進化したか期待をもって参加させていただきました。担当したのは第三小委員会であり外部アワードへエントリーするという初の試みにチャレンジさせていただきました。主に各省庁が行っているアワードの内容に該当している各ＬＯＭの事業をエントリーしていだくサポートを行いました。年内発表のものでアワード獲得はありませんでしたが全国各地の多くの議案書を見ることができ多くの築きを得ることができました。

ＺＯＯＭでの参加がほとんどであり決して親交を深めたとは言えない出向でしたが一年間支えてくれた理事長をはじめメンバーの皆様に御礼と感謝を申し上げ、出向者報告とさせていただきます。一年間ありがとうございました。

公益社団法人日本青年会議所
社会グループ　ベビーファースト委員会　　委員　桑原　直人

当委員会では子供を産み育てやすい社会を推進する「ベビーファースト運動」を全国に向けて発信してきました。ベビーファースト運動の具体的な内容としましては、妊産婦や赤ちゃんを第一に考え優先する社会を推進し、妊産婦へのサービスを向上することです。また、サービスを提供する側からも妊産婦や赤ちゃんを優先し敬う気持ちをつくりあげることを目的とした事業です。第１回全体委員会では、新田洋太郎委員長から「２０２２年度でベビーファースト委員会をなくすことを目的としている」と聞いたとき、正直なところ理解不能

でしたが、そのあとに語られる熱い想いを聞いて腑に落ちたことをいまでも覚えています。
　ベビーファースト運動の結果としましては、ベビーファースト宣言を全国４７都道府県すべての自治体から宣言を頂き、全国制覇となりました。企業では大中小の企業１２０社程度が参画を表明し、その中には海外の企業も参画を表明しております。
　私は今回フロアでの出向でしたが、日本には優秀な方々が沢山いて、自分の未熟さや勉強不足な部分を痛感し、まだまだだなと思う一方で、もっといろんなことを学ぼう、いろんなことを経験しようと思える刺激的な１年間になりました。今回の出向経験で最も得られたものは自分の向上心を刺激して頂いたことだと思っています。
　出向させて頂いた米谷量平理事長はじめ会員全てのメンバーの皆様へ感謝申し上げたいと思います。出向の機会を与えて頂きまして誠にありがとうございました。以上で出向者の報告とさせて頂きます。

公益社団法人日本青年会議所
東北地区福島ブロック協議会　　監査担当役員　白石　正広

　私のＪＣラストイヤーの年に、福島ブロック協議会監査担当役員として出向の機会をいただきました。２０２２年になり、本格的に動き出そうとしている時に、妻が病に倒れ２月中旬以降は、一度も参加することができませんでした。米谷理事長をはじめとするメンバーの皆様には、出向の機会を与えてくださったにもかかわらず申し訳ございませんでした。
　予定者の期間を含め数ヵ月の活動で報告できることは、福島ブロック協議会の役員会議や会員会議所会議内にて、第三者に近い視点で参加するということが、今まで経験したことがなかったので新鮮でした。表立って意見を言う立場というよりは、コンプライアンスの確認やより良い運営ができるための助言など、一歩引いた形で会議に参加する立ち位置でした。３名いた監査担当役員の中で、誰が監査担当役員講評の機会をもらえるかも、直前まで分からずにドキドキしたのが、今でも忘れません。最後まで、突っ走ることができなかったことが心残りではあります。
　最後になりますが、ＪＣには４０歳という期限があります。ＪＣは本気で向き合わなければ本当の価値は気づきにくい団体だと私は思います。一つの機会がきっかけとなり、熱意をもってやろうと思った時には、もしかすると卒業という期限が迫っているケースも少なくないのではないでしょうか。だからこそ、まだＪＣライフが残されている皆さんには、一つひとつの機会を積極的に掴んでほしいと願います。もちろんＪＣ以外でも同様だと思います。ラストイヤーという年に、ＪＣをはじめ多くの機会に参加できる背景には、家族や社員の協力がありどれだけ恵まれていたのかということ、ＪＣ活動ができること自体が奇跡に近いことだということを気づかせてくれました。
　次年度以降も現役でいる皆さんはどうか悔いのないＪＣライフを過ごしてほしいと強く思います。一年間ありがとうございました。

公益社団法人日本青年会議所
東北地区福島ブロック協議会組織連携推進委員会　　委員　橋本　隆亮

２０２２年度福島ブロック協議会組織連携推進委員会に委員として出向させていただきました。

本年度組織連携推進委員会では、女性メンバー活躍推進セミナーの動画配信を皮切りに、各ＬＯＭの要請に基づくＬＯＭ支援事業や災害時における福島ブロック協議会としてサポート等を行ってまいりました。また、福島ブロック協議会ｉｎ二本松においては、防災減災事業として親子向けのスタンプラリーを実施しました。

個人的には、可能な限り委員会に参加し、またブロック大会の現地スタッフとして微力ながら関わらせていただきましたが、振り返れば１年を通した参加率が３割程度にとどまってしまった点が反省点です。出向は公私共により広いネットワークを構築するうえで最適の場所ですし、新たな気付きを得る絶好の場でもありますので、２０２３年度出向の機会をいただけた際は、本年以上に積極的に参加したいと思っております。

最後に、１年間出向の機会を与えていただいた米谷理事長、ありがとうございました。

公益社団法人日本青年会議所
東北地区福島ブロック協議会　ブロック大会実行委員会　　委員　勝山　修二

ブロック大会実行委員会の委員で出向させていただき､7 月に開催されるブロック大会 in 二本松の運営に携わらせていただきました。先ずは出向させていただき、また新たな素晴らしい仲間達と出会うことができました。出向の醍醐味の一つだと思います。

大会中のファンクションの一つでニコニコ共和国大統領模擬選挙が開催されるにあたり、二本松市内の中学生・高校生の立候補者の方達と地域の問題や課題解決について話をし、地域の事をしっかりと考えている学生達に感心させられ、当日は多くの方々に参加していただき、二本松の岳温泉街の魅力を多くの方に知っていただけた事業となりました。ブロック大会記念式典では司会を務めさせていただき、人前で話すことが苦手な私に素晴らしい成長の機会を与えていただきました。

２０２３年は猪苗代で、そして２０２４年は田村の地でブロック大会の開催が決まっています。今年出向させていただいたこの経験を、田村開催時での大会成功のために少しでも活かせればと思います。

最後にこの素晴らしい出向の機会を与えてくださいました米谷理事長、そして会員の皆様、1 年間ありがとうございました。

【一般社団法人田村青年会議所　２０２２年度 監事報告】

外部監事　箭内　貴之

本年度は「わくわく たむら～愛を持って地域を語ろう～」をスローガンに掲げ、地域の歴史、文化を知り、その宝を磨き上げ、地域を愛する想いを培い、そして住み暮らす人々と共有し、共感の連鎖を生み、郷土愛を持つ人々で溢れる地域を目指して１年間メンバー一丸となって事業を展開してまいりました。コロナ過３年目でしたが感染者の増加減少を繰返す状況は変わらずで、事業構築するものの、状況変化に対応しての内容修正や、事業実施直前での臨機応変な対応など大変ご苦労されたかと思います、お疲れ様でした。

本年度は国民一人ひとりの幸福を測る新たな指標として注目されている「Ｗｅｌｌ－ｂｅｉｎｇ」にスポットを当てセミナー等を開催しました。セミナーでは「人間は身体的、精神的、社会的に良好な状態のときに幸福を感じる」ということを学び、新しい気づきを得ることが出来ました。またメイン事業「たむら愛郷祭」では地元の生産者と飲食店のコラボレーションによるオリジナルメニュー開発出店や諸団体等のご協力をいただき、盛大に開催することが出来ました。当日は天気にも恵まれ多くの来場者が出店ブースやステージイベントを見て楽しそうにしている姿が見られて大変素晴らしい事業になったと思います。これもメンバー一人ひとりが熱意をもって事業に取り組んだことで、地域の人たちを動かし巻き込むことが出来たのだと思います。今後も田村圏の更なる発展と飛躍を目指して活動に取り組んでいっていただきたいと思います。

結びに田村青年会議所が地域に必要とされる団体であり続けることを祈願いたしまして本年度の活動報告とさせていただきます、１年間外部監事を務めさせて頂きありがとうございました。

外部監事　吉田　典史

２０２２年度、監事という役職を初めてお預かりしました。また、ＪＣを卒業してからの外部監事ということで、現役を退いてから再びＪＣと触れ合う貴重な経験をいただきました。

これまで色々な役職をいただき活動や運動を行ってきましたが、やはり一度離れて第三者の目線に立ってみると現役当時には気付かなかった事や見えなかったものがあったのだと感じました。どんな運動を行う上でもメンバー自身が楽しんで出来なくては周りへの効果や自己の研鑽に良い影響は与えられません。楽しんで行うためにはやはり会議が重要になってきます。各委員会や役員会、理事会での協議を経て承認され事業を行う以上、各会議でより良い事業にするために各々が建設的な意見を交わし、各々が納得せねばメンバーが楽しんで参加できる事業には至りません。各委員会が持ち込む議案書は自分の委員会ののものにはやはりそれぞれの想いがあり、悪い意味ではないですが妄信的になってしまいます。そんな時必要なのは客観的な意見であると感じました。現役時代には得られなかった一歩引いた感覚というものは現在の立場になってからでなくては感じ得られません。卒業後も気付きと学びの機会をいただいたことに感謝し報告とさせていただきます。

外部監事　鈴木浩彰

２０２２年度、外部として監事職を務めさせていただきました。２年目としてスタートした監事職でしたが、外部という事で１年目とは違い、発言の順番が３番目として講評をさせていただく事がほとんどでした。その為、会議の中身や例会などの進行状況などに対

してではなく、会議や例会を通してＪＣＩ田村、メンバー各個人がこれからどうなっていってほしいかという話が多かった様に思えます。２０１７年から５年間、理事会に参加させて頂きましたが、たった５年で参加している顔ぶれもガラっと変わり、会議の内容には磨きがかかり、成長したＪＣＩ田村を感じる事が出来ました。実際の活動としてもブロック大会の誘致、数年ぶりの大きな対外事業と、臆する事なくチャレンジしている姿には感銘を受けました。それでも成長したメンバーたちは更なる成長を欲している様に感じます。現状に満足せず、先を見据え成長への欲が止まる事がないメンバー各位を見て刺激をもらった１年となりました。最後の最後まで、勉強・刺激を頂く事ができ心より感謝をし、最後の活動報告とさせて頂きます。

（一社）田村青年会議所　２０２２年度　収支決算書

２０２２年１月１日～２０２２年１２月３１日

（単位　円）

	２０２２年度決算	２０２２年度予算	差額	備　　考
Ⅰ　事業活動収支の部				
1　事業活動収入				
①　特定資金運用収入	0	0	0	
②　入会金収入	150,000	450,000	△ 300,000	新入会員5名（¥30,000×5名）
③　会費収入	2,250,000	2,280,000	△ 30,000	
正会員会費	2,100,000	2,100,000	0	正会員21名（¥100,000×21名）
新加入会員会費	0	0	0	
特別会員会費	150,000	180,000	△ 30,000	特別会員5名（¥30,000×5名）
賛助会員会費	0	0	0	
④　事業収入	0	0	0	
事業費繰入	0	0	0	
登録料	0	0	0	
業務受託	0	0	0	
預り金	0	0	0	
雑収入	0	0	0	
⑤　補助金等収入	0	0	0	
地方公共団体助成金	0	0	0	
⑥　寄付金収入	250,000	100,000	150,000	
寄付金	250,000	100,000	150,000	OB会協力金
⑦　雑収入	17,991	20,010	△ 2,019	
受取利息	3	10	△ 7	貯金利息
その他雑収入	17,988	20,000	△ 2,012	JCカード利用手数料等
⑧　他会計からの繰入金収入	0	0	0	
一般会計からの繰入金	0	0	0	
基金会計からの繰入金	0	0	0	
事業活動収入計	2,667,991	2,850,010	△ 182,019	
2　事業活動支出				
①　事業費支出	521,434	460,000	61,434	
地域活性化事業	253,200	140,000	113,200	愛郷まちづくり委員会
人材育成事業	139,368	140,000	△ 632	ひとづくり委員会
災害支援・復興事業	0	0	0	
研修事業		20,000	△ 20,000	総務委員会
交流事業	64,294	20,000	44,294	総務委員会（OB会交流事業等）
会員拡大事業	64,572	140,000	△ 75,428	会員拡大委員会
事業会計支出	0	0	0	
②　管理費支出	1,858,239	1,999,924	△ 141,685	
会議費	8,000	20,000	△ 12,000	2023年度京都会議登録料
例会運営費	71,128	80,000	△ 8,872	1月・8月通常総会会場費，年間事業報告会会場費等
給与手当	840,000	840,000	0	¥70,000×12か月
福利厚生費	0	0	0	
旅費交通費	0	0	0	
通信・発送費	147,987	170,000	△ 22,013	通話料，通信料，発送費，ZOOM年間契約料等
インフォメーション関係費	10,725	10,000	725	おさいぽ
広報費	66,000	66,000	0	新聞広告費（民報，民友）
消耗品費	89,067	120,000	△ 30,933	コピー用紙，トナー，事務用品等
会員支給品費	41,250	75,000	△ 33,750	JCバッジ，ネームプレート，LOMネクタイ等（新入会員５名分）
リース料	10,032	10,032	0	コピー機リース料
修繕費	0	2,692	△ 2,692	
印刷製本費	12,370	15,000	△ 2,630	年賀状印刷代
光熱水道料費	2,310	4,000	△ 1,690	灯油代
貸借料	277,200	277,200	0	家賃月額¥23,100円×12か月
業務委託費	0	0	0	
記念品費	115,630	120,000	△ 4,370	卒業生記念品（6名），花代等
保険料	0	0	0	
租税公課	83,050	90,000	△ 6,950	印紙，法人県民税，法人町民税等
渉外費	70,718	90,000	△ 19,282	慶弔費，諸会費，交際費等
雑支出	12,772	10,000	2,772	振込手数料
③　負担金支出	584,464	791,052	△ 206,588	
国際青年会議所負担金	43,264	53,352	△ 10,088	（13米ドル×114円）×26名
日本青年会議所負担金	232,500	290,000	△ 57,500	¥5,000×23名＋¥2,500×3名＋¥30,000（LOM）　出向者¥20000×4名
地区協議会負担金	39,500	59,000	△ 19,500	¥1,500×23名＋基本金¥5,000
ブロック協議会負担金	150,000	215,000	△ 65,000	¥5,000×23名＋¥35,000（LOM）
国際協力資金	47,450	65,700	△ 18,250	¥1,825×26名
We Believe購読料	71,750	108,000	△ 36,250	¥3,000×22名＋¥2,500×1名＋¥1,250×2名＋¥750×1名
④　他会計への繰入金支出	0	0	0	
一般会計からの繰入金	0	0	0	
基金会計への繰入金	0	0	0	
事業活動支出計	2,964,137	3,250,976	△ 286,839	
事業活動収支差額	-296,146	-400,966	104,820	
Ⅱ　投資活動収支の部				
1　投資活動収入	0	0	0	
2　投資活動支出	0	0	0	
①　特定資産取得支出	0	0	0	
退職給付引当資産取得	0	0	0	
②　固定資産取得支出	0	0	0	
什器備品取得	0	0	0	
投資活動支出計	0	0	0	
投資活動収支差額	0	0	0	
Ⅲ　財政活動収支の部				
1　財務活動収入	0	0	0	
2　財務活動支出	0	0	0	
当期収支差額	-296,146	-400,966	104,820	
前期繰越収支差額	400,966	400,966	0	
次期繰越収支差額	104,820	0	104,820	

■一般会計正味財産増減計算書

（単位　：　円）

科　　目	金		額
Ⅰ．増加の部			
1．資産増加額			
資産増加合計			
Ⅱ．減少の部			
1．負債増加額	296,146		
負債の部合計	296,146		
当期収支差額			-296,146
当期正味財産増加額			-296,146
前期繰越正味財産額			400,966
期末正味財産合計額			104,820

2022年12月31日現在

■一般会計貸借対照表

科　　目	金		額
Ⅰ．資産の部			
1．流動資産			
現金預金	104,820		
流動資産合計			104,820
2．固定資産			
その他固定資産	0		
構築物	0		
備品	0		
固定資産合計			0
資産合計			104,820
Ⅱ．正味財産の部			
正味財産			104,820
（うち当期正味財産額）			0
負債及び正味財産額合計			104,820

■一般会計計算書類に対する注記

1．重要な会計方針

（1）　固定資産の減価償却について

有形固定資産の減価償却は定率法で実施している。

（2）　資産の範囲について

資産の範囲には、現金、預金、未収金、仮払金、立替金及び未払い金、預かり金、預託金を含めている。

（3）　消費税について

消費税については、税込み表示をしている。

2．次期繰越収支差額の内容は次のとおりである。

科　　目	前期末残高	当期末残高
現金預金	400,966	104,820
合計	400,966	104,820
次期繰越収支差額	400,966	104,820

2022年12月31日現在

■一般会計財産目録

科　　目	金		額
Ⅰ．資産の部			
1．流動資産　　現金	14,437		
普通預金　東邦銀行三春支店	87,576		
東邦銀行船引支店	2,517		
郡山信用金庫三春支店	290		
流動資産合計			104,820
2．固定資産			
有形固定資産	0		
構築物看板	0		
備品　パソコン	0		
固定資産合計			0
資産合計			0
正味財産			0

会　計　監　査　報　告

会計は、予算に基づき適正に処理されており、また計算書類は定款に従い財産及び収支の状況を正しく示してあると認める。

令和　5 年　1 月　18 日

一般社団法人　田村青年会議所

監事　箭内 貴之

監事　吉田 典史

監事　鈴木 裕貴

【一般社団法人田村青年会議所　２０２３年度　理事長所信】

所　信

幸福（しあわせ）追求

～多様性と開放性を持って夢を描こう～

一般社団法人田村青年会議所　第４２代理事長　勝山　修二

【はじめに】

「幸福」とはいったい何でしょうか。

幸福について、人は目先の環境に振り回されるのをやめ、すべては本質が空しいとかみ砕き飲み込み、精神的落ち着きを得るべきです。世俗的な幸福の源泉を人のあり方・人の有するもの・人の印象の与え方に大別できると考えます。

私自身、あまり感情の起伏が激しくなく、感情を表情に出すこともほぼありません。何を考え、何を思っているのか分からないと親しい友人には指摘を受けます。しかし、それが私であり、冷静な判断こそが自分の幸福のエントランスだと考えます。

幸福とは絶対的に人の中にあり、更には人と人の関わりや繋がり、コミュニケーションの中にあるのだと私は考えます。田村圏（田村市、三春町、小野町）は住みやすい、けれど何が不足しているのでしょうか。自然も豊かで伝統ある文化や芸能もある。しかし田村圏に暮らす責任世代が知る機会がありません。

趣味や娯楽の内容や対象物で楽しみは生まれます。楽しみ＝幸福とは行かぬまでも、楽しみが活力となり、幸福のエッセンスになることは間違いないはずです。

【想いを拡げる会員拡大】

青年会議所は４０歳で卒業を迎えます。新型コロナウイルスが猛威を振るい始めてから私たちの事業や運動・活動が制限されることが増え、少しずつ緩和はされてきましたが、同じ志を持つ人たちとの交流や私たち青年会議所の想いを発信する機会が以前より激減したのは間違いないです。コロナ禍になり会員拡大を率先して行うことができず、卒業を迎える会員ばかり増える状況が続き年々会員数も減少し、さらには入会歴３年未満の会員数が３分の１以上を占めます。これまで先輩方が築き上げてきた田村青年会議所の伝統、想いを繋げ、この地域の未来のために同じ志を持った仲間を増やすことが重要だと考えます。

正直、私自身青年会議所に入会したときは他の会員と同じ志を持っていた訳ではありま

せん。しかし、仲間とより良い地域にするために運動を続けることによって自己意識や責任感を段々と成長させることができ、今では同じ志を持つ仲間と共にこの地域をより住みやすい場所へ発展するよう尽力することに夢中になっています。また、現在田村青年会議所の女性会員は２名と、世の中の男女比として考えてもかなり低い状況です。現代、女性の社会進出は重要でこの田村を共に盛り上げる女性が増えれば、新しい観点からより良い地域発展へと導くことができると考えます。これからの時代をより良い地域に、そしてこの地域を担う子供のために私たち責任世代がこの想いを繋げるべく、ジェンダーフリーへの意識改革を推進し、共に自己成長できる、切磋琢磨できる仲間を増やしてまいります。

【世代を超え一丸となるまちづくり】

過去最大級の居住満足度を目的とした民間会社の調査によれば福島県に住む２０歳以上の男女７５０６名を対象に調査を行った結果、「街の幸福度（自治体）ランキング」１位は「本宮市」。２位は「西白河郡矢吹町」、３位には「いわき市」という結果となっています。〔「街の幸福度ランキング」は、２０１９～２０２２年の回答者数５０名以上の自治体を対象として集計したもので、幸福度の評点は、非常に幸福だと思う場合を１０点、非常に不幸だと思う場合を１点とする１０段階の回答平均を１００点満点にするために１０倍したもの。(大東建託株式会社賃貸未来研究所『街の幸福度&住み続けたい街ランキング２０２２』参照)。〕

わたしたち田村圏は…１０位以下。１０位までのランキングのみ公表されているがこの結果に納得してしまう私もいました。田村圏の住みやすさは、他の市町村と比較しても申し分ないと思います。しかし住みやすさ＝幸福ではないようで、どうして様々な要素が幸福度に繋がると考察できたのでしょうか。今この地域に何が求められ、何が満たされれば幸福なのでしょうか。

昨今、人口減少による過疎化が進む中、追い打ちをかけるかのように新型コロナウイルス感染の拡大により人が集まる機会が激減しています。昔からあった地元の祭りなどの開催が難しいのが現実で地域の楽しみが無くなってきています。それに伴い地域での人間関係が希薄化しています。私たちが幼少期経験した子供から大人まで一緒に楽しめる事業が今の時代にも必要ではないかと感じます。

また、磐越東線では「小野新町～いわき」区間が赤字路線となっており、廃線となるリスクを抱えています。これを踏まえて私は人生初、磐越東線上り線「小野新町～いわき」区間を体感し、区間の素晴らしさや不便さなどを実感しました。県内の中枢都市を結ぶ交通機関として長年私たちの生活を支えてきた路線の魅力を見直し、田村圏はもちろん、福島県内外に発信する責務を感じました。

この地域に住み暮らす幅広い世代が一つになって自分たちの地域を盛り上げて行こうと行動に移せば、必ず自分なりにこの地域の良さに気付き、この地域を愛し、幸福を感じることができるでしょう。

誰かがやってくれるから。ではなく、一緒にやりたいと思うことができる、多様で開放的な組織を意識し、地域の方々を巻き込み、一丸となったまちづくりを目指してまいります。

【幸福を共有できるひとづくり】

近所を子供と散歩していてすれ違う人に挨拶をした時、返事をしてくれなかった。そんな経験をしたことはないでしょうか？私は非常に違和感を覚えました。子供は当たり前に挨拶ができるのに、その習慣は一体いつから変化してしまったのでしょうか。私自身もコミュニケーションスキルが高い方ではなく、人見知りで、口数も少ないので勘違いされやすいです。それを自分の短所だと感じていて、常に改善したいと思っています。自分の想いを言葉にすることは得意不得意があると思いますが、立場で人を分別するのではなく分け隔てなく交流できる子供の感性のまま、大人同士も関係性を築けたら面白いと考えます。いつ、何時も大人が正解ではないはずです。

日本が直面している問題の一つ、「少子高齢化」。総務省の調査によれば、２０１０年には２３．０％であった６５歳以上の人口が２０６０年には３９．９％までに増加することが見込まれています。その一方で、２０１３年には７，９０１万人だった１５～６４歳までの生産年齢人口は２０６０年に４，４１８万人まで落ち込む可能性があります。少子高齢化が進む状況で、国はいかに労働力人口を確保していくのかは重要なテーマです。

これは私たちの住むこの地域でも他人事ではありません。１９８０年には８２，０６４人だった田村圏の人口も４０年後の２０２０年には６２，１２７人まで減少しています。この地域の将来を担う子供の人口を増やすことは難しいかもしれませんが、今この地域に住み暮らす子供が一人でも多く、将来地元に残って地域を盛り上げる存在に成長できるよう、私たち責任世代が改めて、大人と子供が共に幸せを感じられる地域づくりをしなければなりません。そうすればＵターン、更にはＩターン人口の増加にも繋がると考えます。

ひとづくりとは人財への投資です。この地域の今の当たり前を覆し、大人の当たり前、子供の当たり前をお互い理解・尊重し合い、この地域に住み暮らす全ての世代が信頼し、身内のような付き合いができ、一人でも多くの方が幸福を感じられる地域を目指します。

【誰一人取り残されない組織づくり】

私たちは「奉仕」「修練」「友情」という三信条のもと、「明るい豊かな社会」の実現を目指す団体、それが青年会議所です。

１９４９年、「日本はこの先どうなるのだ」という今以上に混沌とした戦後の時代背景の中、全国各地で同じ志を持った若者が立ち上がり、青年会議所運動は始まりました。この田村圏も私たちの先輩方が奮起し、１９８２年１０月に田村青年会議所が産声を上げました。そして今もその想いは引き継がれ、地域の為に今の時代、何が大事で何が必要か、同じ志を持つ仲間と共に時間を共有し、悩み、その先の「明るい豊かな社会」実現へ向けて日々運動・活動しています。まさに私たちが目指す三信条です。

近年、経験が浅い会員の割合が増えています。せっかく入会してもなかなか参加が叶わず毎回出席するのは決まった人ばかりで、例会なども出席率が低いのが現状です。先ずは私たちの組織の一人ひとりが幸福を感じ、周りを巻き込めるような存在とならなくてはなりません。お互いを尊重し合い、理解することも大事でしょう。この地域に必要とされるリーダーとなる人財を育成すべく、強固な組織づくりを推進します。その為に会員一人ひとりの機会を実りある、共に成長できる機会の提供となるよう心掛け、参加したくなるような場を設け、同じ想いを共有します。

【さいごに】

田村青年会議所は、先輩方が「田村は一つ」の想いを掲げて４２年目となります。２０２４年には１７年ぶりに福島県の各地域からの出向者で組織している福島ブロック協議会主催によるブロック大会を主管します。これからさらにこの田村圏を盛り上げるための一助となると確信しています。そのために昨年から「たむら愛郷祭」をこの地域の継続事業とし、開催させていただきました。

私たちが住み暮らす田村圏も同じくコロナ禍による影響をはじめ、度重なる災害などにより経済は打撃を受けています。また、従来からの少子高齢化や人口減少により地域活動を活発に行う方が減少しています。

「たむら愛郷祭」では多くの来場者が田村圏を訪れ、田村圏の食と文化を堪能していただきました。この田村圏にある食や伝統文化など地域の誇れる魅力を掘り起こし、磨き上げる事業を地域の皆様とともにつくりあげることで「たむらが好き」という言葉も聞かれ、たむら愛が芽生えた事業となりました。また伝統文化の掘り起こしもでき、新たな田村圏の魅力発見にも繋がったと思います。今年度は趣向を変え、子供からお年寄りまで楽しめる事業の開催など求められているのではないでしょうか。

この地域の全ての世代の人々が幸福と感じられることができる田村圏にできるよう、邁進してまいります。

一般社団法人田村青年会議所

基　本　理　念

既成概念に捉われず多様性と開放性で多くの幸福を感じる田村圏の創造

基　本　方　針

１、想いを拡げる会員拡大

２、世代を超え一丸となるまちづくり

３、幸福を共有できるひとづくり

４、誰一人取り残されない組織づくり

２０２３年度　職務分掌

【共通】
共－１　会員拡大の実行
共－２　友好ＪＣとの交流
共－３　各種大会・会議等への積極的な参加・推進
共－４　ＯＢ会との連携・交流
共－５　他ＬＯＭ、団体との積極的な交流
共－６　地域事業への積極的参加

【専務理事】
１　四役会・理事会の運営
２　諸会議・事業の出欠の確認
３　法人格の維持継続
４　ＬＯＭ内の諸連絡
５　事務局との連携、その他庶務に関する事項の実施

【事務局】
１　諸会議の設営と運営
２　法人格の維持継続
３　専務理事の補佐及びその他庶務に関する事項
４　個人情報の管理

【愛郷まちづくり委員会】
１　世代を超え、一丸となるまちづくり事業の企画・実施
２　磐越東線の魅力を田村圏、福島県内外に発信する事業の企画・実施
３　例会の設営と運営

【ひとづくり委員会】
１　地域に幸福を感じられるひとづくり事業の企画・実施
２　想いを拡げ、同志を増やす会員拡大運動の企画・実施
３　分かりやすく伝える新入会員セミナーの企画・実施
４　例会の設営と運営

【総務委員会】
１　誰一人取り残されない組織づくり事業の企画・実施
２　運動推進のための補助金取得の調査・検討
３　ホームページの管理・運営
４　ＳＮＳ等による効果的な情報発信
５　公開討論会の企画・実施
６　例会・総会の設営と運営
７　卒業式の設営と運営

【一般社団法人田村青年会議所　２０２３年度 副理事長所信（案)】

担当委員会：愛郷まちづくり委員会
副理事長　橋本　隆亮

昨今の人口減少と地方の過疎化により、私たちが住み暮らす田村圏における住民のきずなは、一世代前に比して次第に薄れつつあるのではないかと実感しています。加えて、３年半以上が経っても収束が見られない新型コロナウイルスの蔓延は、それに輪をかけるように人々が集まる機会を奪い、その結果、住民同士の関係はさらに希薄化が進んでいるように思います。私たちが子供の頃は、地域の幅広い世代が集う盆踊りや子供会などの集団宿泊を伴うイベントがあり、それらを通して、地域住民との間で家族と遜色ない密な交流を図ることができました。しかし、それらが制限を余儀なくされている現在、私たち責任世代が子供を含む若い世代を繋ぐための手段を真剣に考えなければならないと感じます。

大手民間企業が公表した『街の幸福度（自治体）ランキング』によれば、福島県内における田村圏の順位は残念ながら１０位以下となっております（大東建託株式会社賃貸未来研究所『街の幸福度＆住み続けたい街ランキング２０２２』参照)。ここでいう「幸福度」の大小は、交通機関などの利便性、そこにある自然や文化、教育の充実度といった物的要素もさることながら、何より人と人との繋がりや地域に対する愛郷心など精神的な要素も少なからず結果に直結しているのではないかと考えます。

本年度愛郷まちづくり委員会は、田村圏に住み暮らす幅広い世代の住民一人ひとりが、人との繋がりや地域の良さを実感でき、ひいてはそれぞれがこの街に「幸福」を見出せるような事業を展開していきます。

また、磐越東線の一部区間が赤字路線を抜け出せず、廃線の危機を迎えている昨今、幸福度を構成する要素の一つである交通機関の利用促進も私たちの責務の一つと言えます。開通以降、私たちの生活を支えてきた路線の魅力を今一度見直し、かつ内外に発信していくことで、利用者の増加を目指すとともに田村圏の幸福度を高めていきます。

本年度愛郷まちづくり委員会は、会員はもとより、幅広い世代がこの地域に集うことにより、多くの幸福を感じられるよう、多様性と開放性の視点に立った運動を展開してまいります。

担当委員会：ひとづくり委員会
副理事長　村田　将一

子供の時は誰にでも話ができたが、大人になると人や言葉を選んで話すようになった。過去に経験した失敗や否定されることへの恐怖があり、子供の時のような自由で独創的な発想が出来なくなった。多くの方がそのような経験をして大人として言葉を選ぶこと、過去の失敗を活かすことを学んできたと思います。しかし、その常識にとらわれすぎてチャレンジ精神や交流、行動も控えめになってはいないでしょうか。

子供の感性で、誰とでもコミュニケーションを取り、失敗や否定を恐れずアイデアを出し共有する。大人として互いを理解し尊重し合い、経験の中で培った知識を活用し、実現と成功のために行動し助け合う。そのような人が増えることで地域全体が身近に感じることのできる関係となり、この地域が居心地の良い場所と感じる人が増えることに繋がります。そして、愛郷心が芽生え、田村圏に残りたい、戻りたい、より良くしたいという人が増えるはずです。

「子供は親の背中を見て育つ」とよく言われる通り、子供は親のやっていることを見て、それが当たり前のことと思い成長します。大人が互いを尊重し理解しようとすることで、子供もそのように成長します。相手を尊重し理解することはコミュニケーションを取ることから始まります。地域コミュニティが希薄化している今こそ、大人が人と人との繋がりの大切さを再認識し地域の交流の輪を拡げて行く必要があります。

また、その運動を拡げるためには我々田村青年会議所が今以上に発信力のある団体とならなくてはなりません。我々も多くの方に入会の案内をさせていただいてきましたが、この田村圏にはまだまだ多くの人財が潜在しているはずです。まずは現在の田村青年会議所に少ない女性会員の増強が急務であると考えます。女性と男性にリーダーとしての資質に違いはありません。同じようにこの地域の未来を担うリーダーとなる大切な人財です。田村青年会議所に女性の力が増える事で今までと違った新しい視点を持つことができ、さらに強固な団体となります。今まで情報の届いていなかった多様な人財にアプローチをかけ、この地域に潜在している人財がリーダーとしての資質を身に付けることで、さらに多くの方に我々の想いを拡げ、幸福を共有できる地域となるよう邁進してまいります。

２０２３年度愛郷まちづくり委員会事業計画（案）

～ｂａｔｔｅｒｆｌｙ ｅｆｆｅｃｔ～

委員会名	愛郷まちづくり委員会
担当副理事長	橋本　隆亮
委員長	玄葉　俊行
副委員長	舞木　　光
委員	石川　陽二郎　村田　憲一　永井　寛人

１．委員会方針

委員長所信

私たちが住み暮らす田村圏における住民のきずなは、一世代前に比して次第に薄れつつあるのではないかと実感しています。私たちが子供の頃は、地域の幅広い世代が集う盆踊りや子供会などの集団宿泊を伴うイベントがあり、それらを通して地域住民との間で交流を図ることができました。しかし、その機会が減少し、加えて、現在も社会的、経済的に影響をもたらす新型コロナウイルスの蔓延は、それに輪をかけるように人々が集まる機会を奪いました。

昨年、当青年会議所が実施した、たむらけん異業種交流会のアンケートの中で「田村圏の魅力は何ですか」という問いに対して、多くの方が「人の温かさ」を挙げていました。つまり、人との交流の機会は、今現在も地域住民に強く求められています。この地域だからこそ感じることのできるきずなを次世代へ伝えることは、私たち責任世代の大きな課題です。

課題解決に向け、誰かが先頭に立ちこの問題に向き合わなければいけません。その為、地域のリーダーを目指す私たちＪＣメンバーが先頭に立ちこの地域のきずなを深める一翼を担う必要があります。その一助として、私たちが幼少期に経験した子供から大人まで一緒に楽しむ事業を行います。田村圏に住む幅広い世代の住民一人ひとりが、人との繋がりや地域の良さを実感できる事業を行うことで、田村圏に住み暮らす住民一人ひとりがこの街に「幸福」を感じることができ、更には地域のきずなを強固なものへ波及していく事業構築を目指します。

また、開通以降、私たちの生活を支えてきた磐越東線の一部区間が赤字路線を抜け出せず、廃線の危機を迎えています。幸福度を構成する要素の一つである交通機関の利用促進も私たち責任世代の責務の一つと言えます。路線の魅力に新たな価値の発信をしていくことで、利用者の増加を目指すとともに田村圏の幸福度を高めていきます。また、田村圏外の方達へも発信を続けていくことで住民以外の利用促進を促し、多くの方がこの地域に足を踏み入れる新たな観光名所へ展開していく一助となる事業を行います。

我々の運動から田村圏に住み暮らす人々に幸福の一波を起こすための事業を行いながら、その先のさらなる幸福へと繋がるよう、一年間邁進していきます。

２．事業計画

【共通】
共－１　会員拡大の実行
共－２　友好ＪＣとの交流
共－３　各種大会・会議等への積極的な参加・推進
共－４　ＯＢ会との連携・交流
共－５　他ＬＯＭ、団体との積極的な交流
共－６　地域事業への積極的参加
【愛郷まちづくり委員会】
１　世代を超え、一丸となるまちづくり事業の企画・実施
２　磐越東線の魅力を田村圏、福島県内外に発信する事業の企画・実施
３　例会の設営と運営

３．スケジュール

事業内容/実施月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
担当例会月			○		○		○				○	
一丸となるまちづくり事業			○									
磐越東線魅力再発見事業					○							
たむら愛郷祭全体会							○					
これからのたむらを考える											○	

２０２３年度ひとづくり委員会事業計画（案）

~地域の輪を拡げるひとづくり~

委員会名	ひとづくり委員会
担当副理事長	村田　将一
委員長	村上　真彦
副委員長	杉内　海斗
委員	三浦　聡　　鈴木　啓太

１．委員会方針

委員長所信

人々の価値観や生活様式、家族の在り方が多様化し、地域住民のコミュニティは減少していると感じます。また、コロナ禍によって生まれた新たな生活様式が定着し、今まで以上に人や地域との繋がりは希薄化しています。行動制限の緩和とともに人々が交流しながら地域社会と関わる機会は回復傾向にある今、田村圏を「幸福」に満ち溢れた地域にするため、地域への豊かな愛郷心の醸成や人との繋がりで相手を思いやる心、家族や地域の方々とのコミュニケーションの機会を増やしていく必要があります。

まずは、会員一人ひとりが互いを尊重し理解し合い青年会議所運動に取り組み、既成概念にとらわれない前向きな考えと高いコミュニケーション力を持つ地域のリーダーとして、今まで以上に地域から必要とされる団体となるよう地域に運動を展開します。さらには次世代を担う子供たちが、人との繋がりの大切さを感じ、地域と触れ合う機会を設けることで、この田村の地域を想い未来を描き成長していくため大人と子供が共に学び、人と人との繋がりの輪を拡げるための交流事業を開催します。

また、田村青年会議所の会員であることに誇りを持ち、熱い想いを持って活動に取り組んでいくためには新入会員の加入が必要です。特に田村青年会議所では女性会員の割合が極めて低い状況です。今の我々に不足している女性ならではの感性が増えることで新たな価値が創造され、時代や環境の変化に適応できる、より強固な組織づくりの原動力となります。昨年実施した異業種交流会などの活動実績や候補者リストなどの情報を体系化するとともに、新しい広報活動や広報ツールを活用し、全会員で積極的に多くの同志をこの田村の地域から発掘します。

想いを共感できる仲間を増やし、コミュニケーションを通じて生まれる豊かな人間性を育み、人々の心を魅了し大きく動かすことのできる人財となる私たちの運動を通じて、この地域にたくさんの笑顔が溢れ、幸福を感じる明るい豊かな未来へ導けるよう邁進してまいります。

２．事業計画

【共通】
共－１　会員拡大の実行
共－２　友好ＪＣとの交流
共－３　各種大会・会議等への積極的な参加・推進
共－４　ＯＢ会との連携・交流
共－５　他ＬＯＭ、団体との積極的な交流
共－６　地域事業への積極的参加
【ひとづくり委員会】
１　地域に幸福を感じられる人づくり事業の企画・実施
２　想いを拡げ、同志を増やす会員拡大運動の企画・実施
３　分かりやすく伝える新入会員セミナーの企画・実施
４　例会の設営と運営

３．スケジュール

事業内容/実施月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
例会担当月		○		○					○	○		
会員拡大事業		○		○								
地域交流事業									○			
教育セミナー										○		

２０２３年度総務委員会事業計画（案）

～誰一人取り残されない組織づくり～

委員会名	総務委員会
委員長	横田　　涼
副委員長	荒井　夢子
委員	武藤　友紀　石井　孝征　佐藤　隆介　添田　麻美

１．委員会方針

委員長所信

「魅力ある組織」とはいったいどんな組織でしょうか。会社でいえば「働きやすさ」や、「やりがい」「働きがい」といった要素が挙げられることでしょう。社員が幸福で活き活きとしていると組織全体も明るい印象となり、魅力ある組織が形成されます。

私たち青年会議所は、地域の課題解決のために同じ志をもった青年で構成されたひとつの組織です。同じ思いを持つ者同士が集まることで大きな運動を起こせることがこの組織の大きな魅力でもあります。ただ、この組織には、一企業のようなしっかりした福利厚生もなく、さらには階級による明確な上下関係がある訳でもありません。だからこそ運動を続けていくうえで魅力ある組織づくりが必要不可欠となります。

しかしながら、会員の減少や経験年数の浅さといった課題から、それぞれの運動に対する熱量に大きな個人差を感じられます。ましてや毎月の例会でさえも参加率が低迷しており、個人個人の心理的要因が影響しているかもしれません。

今年度総務委員会では「誰一人取り残さない組織づくり」をテーマに、全ての会員の「参加しやすさ」、「やりがい」を向上させられるような組織づくりを行います。そのために、①例会や総会を通じた田村青年会議所のビジョンの共有、②会員の自己実現につながる学びの機会提供、③会員同士が幸福を感じ尊重し合えるようなきっかけづくりの３つをベースに事業を展開してまいります。

全ての会員に運動に参加してもらうことで、充実感に伴う「幸福」を感じ、誰一人取り残すことなく活き活きとした状態で運動できる魅力ある組織となれるよう一年間努めてまいります。

２．事業計画

【共通】
共－１　会員拡大の実行
共－２　友好ＪＣとの交流
共－３　各種大会・会議等への積極的な参加・推進
共－４　ＯＢ会との連携・交流
共－５　他ＬＯＭ、団体との積極的な交流
共－６　地域事業への積極的参加

【総務委員会】
１　誰一人取り残されない組織づくり事業の企画・実施
２　運動推進のための補助金取得の調査・検討
３　ホームページの管理・運営
４　ＳＮＳ等による効果的な情報発信
５　公開討論会の企画・実施
６　例会・総会の設営と運営
７　卒業式の設営と運営

３．スケジュール

事業内容/実施月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
例会担当月	○					○		○				○
組織づくり事業						○						
通常総会	○							○				
選挙管理委員会				○	○	○	○	○				
公開討論会（三春）								○				
卒業式・家族会												○

一般社団法人田村青年会議所　２０２３年度組織図（案）

- 総会
  - 理事会
    - 監事：橋本　元太
    - 外部監事：吉田　典史
    - 理事長：勝山　修二
      - 直前理事長：米谷　量平
      - 専務理事：石井　聡一
        - 事務局
          - 事務局長：富山　和明
            - 事務局員：松崎　美加
        - 総務委員会
          - 委員長：横田　涼
            - 副委員長：荒井　夢子
            - 委員：武藤　友紀
            - 委員：石井　孝征
            - 委員：佐藤　隆介
            - 委員：添田　麻美
      - 副理事長：村田　将一
        - ひとづくり委員会
          - 委員長：村上　真彦
            - 副委員長：杉内　海斗
            - 委員：三浦　　聡
            - 委員：鈴木　啓太
      - 副理事長：橋本　隆亮
        - 愛郷まちづくり委員会
          - 委員長：玄葉　俊行
            - 副委員長：舞木　光
            - 委員：石川　陽二郎
            - 委員：村田　憲一
            - 委員：永井　寛人
    - ブロック大会準備特別委員会
      - 総括：米谷　量平
        - ブロック大会準備特別委員会
          - 委員長：村田　将一
            - 委員：全員

一般社団法人田村青年会議所

２０２３年度出向者一覧（案）

（公社）日本青年会議所	地域グループ　地域スポーツ活性委員会　委員	米谷　量平
東北地区協議会	東北ゼミナール特別委員会　委員	村田　将一
	東北青年フォーラム運営委員会　委員	橋本　隆亮
福島ブロック協議会	ブロック大会実行委員会　副委員長	舞木　　光
	ブロック大会実行委員会　幹事	米谷　量平
	ブロック大会実行委員会　委員	橋本　元太
	福島の未来創造委員会　委員	村田　将一
	アカデミー委員会　委員	荒井　夢子
	アカデミー委員会　委員	村田　憲一
	アカデミー委員会　委員	永井　寛人

一般社団法人田村青年会議所２０２３年度会員名簿（案）

	役　職	氏　名
1	理 事 長	勝山　修二
2	直前理事長	米谷　量平
3	副理事長	村田　将一
4	副理事長	橋本　隆亮
5	専務理事	石井　聡一
6	理　　事	横田　　涼
7	理　　事	富山　和明
8	理　　事	玄葉　俊行
9	理　　事	村上　真彦
10	理　　事	杉内　海斗
11	理　　事	舞木　　光
12	理　　事	荒井　夢子
13	監　　事	橋本　元太
14	監事（外部）	吉田　典史
15	委　　員	武藤　友紀

	役　職	氏　名
16	委　　員	石川陽二郎
17	委　　員	三浦　　聡
18	委　　員	石井　孝征
19	委　　員	佐藤　隆介
20	委　　員	村田　憲一
21	委　　員	永井　寛人
22	委　　員	鈴木　啓太
23	委　　員	添田　麻美

一般社団法人田村青年会議所２０２３年度
四役員一覧（案）

1	理 事 長	勝山　修二
2	直前理事長	米谷　量平
3	副理事長	村田　将一
4	副理事長	橋本　隆亮
5	専務理事	石井　聡一
6	理　　事	横田　　涼
7	理　　事	富山　和明
8	理　　事	玄葉　俊行
9	理　　事	村上　真彦

一般社団法人田村青年会議所２０２３年度
理事一覧（案）

1	理 事 長	勝山　修二
2	直前理事長	米谷　量平
3	副理事長	村田　将一
4	副理事長	橋本　隆亮
5	専務理事	石井　聡一
6	理　　事	横田　　涼
7	理　　事	富山　和明
8	理　　事	玄葉　俊行
9	理　　事	村上　真彦
10	理　　事	杉内　海斗
11	理　　事	舞木　　光
12	理　　事	荒井　夢子
13	監　　事	橋本　元太
14	監事（外部）	吉田　典史

一般社団法人田村青年会議所

（一社）田村青年会議所　２０２３年度　収支予算書(案)

２０２３年　１月　１日～２０２３年１２月３１日

（単位　円）

	２０２３年度予算	２０２２年度決算	差額	備　　考
Ⅰ　事業活動収支の部				
1　事業活動収入				
①　特定資金運用収入	0	0	0	
②　入会金収入	450,000	150,000	300,000	新入会員15名（¥30,000×15名）
③　会費収入	2,080,000	2,250,000	△ 170,000	
正会員会費	1,900,000	2,100,000	△ 200,000	正会員19名（¥100,000×19名）
新加入会員会費	0	0	0	
特別会員会費	180,000	150,000	30,000	特別会員6名
賛助会員会費	0	0	0	
④　事業収入	480,000	0	480,000	
事業費繰入	0	0	0	
登録料	0	0	0	
業務受託	0	0	0	
預り金	0	0	0	
雑収入	480,000	0	480,000	三春ロータリークラブ事務受託収入
⑤　補助金等収入	0	0	0	
地方公共団体助成金	0	0	0	
⑥　寄付金収入	250,000	250,000	0	
寄付金	250,000	250,000	0	OB会協力金
⑦　雑収入	20,010	17,991	2,019	
受取利息	10	3	7	貯金利息
その他雑収入	20,000	17,988	2,012	JCカード利用手数料等
⑧　他会計からの繰入金収入	0	0	0	
一般会計からの繰入金	0	0	0	
基金会計からの繰入金	0	0	0	
事業活動収入計	3,280,010	2,667,991	612,019	
2　事業活動支出				
①　事業費支出	460,000	521,434	△ 61,434	
地域活性化事業	140,000	253,200	△ 113,200	愛郷まちづくり委員会
人材育成事業	140,000	139,368	632	ひとづくり委員会
災害支援・復興事業	0	0	0	
研修事業	40,000	0	40,000	総務委員会
交流事業	40,000	64,294	△ 24,294	総務委員会（OB会交流事業等）
会員拡大事業	100,000	64,572	35,428	ひとづくり委員会
事業会計支出	0	0	0	社会開発事業等
②　管理費支出	2,201,585	1,858,239	343,346	
会議費	20,000	8,000	12,000	京都会議登録料
例会運営費	80,000	71,128	8,872	1月・8月通常総会会場費，年間事業報告会会場費等
給与手当	960,000	840,000	120,000	¥80,000×12か月
福利厚生費	0	0	0	
旅費交通費	0	0	0	
通信・発送費	170,000	147,987	22,013	通話料，通信料，発送費等、ＺＯＯＭ年間契約料
インフォメーション関係費	11,000	10,725	275	
広報費	66,000	66,000	0	新聞広告費（民報，民友）
消耗品費	200,000	89,067	110,933	コピー用紙，トナー，事務用品等
会員支給品費	75,000	41,250	33,750	JCバッジ，ネームプレート，LOMネクタイ等（会員獲得人数による）
リース料	10,032	10,032	0	コピー機リース料
修繕費	0	0	0	
印刷製本費	15,000	12,370	2,630	総会資料作成費・年賀状等
光熱水道料費	4,000	2,310	1,690	灯油代
貸借料	277,200	277,200	0	家賃月額¥23,100円×12か月
業務委託費	0	0	0	
記念品費	120,000	115,630	4,370	卒業生記念品（6名），花代等
保険料	0	0	0	
租税公課	83,050	83,050	0	印紙，法人県民税，法人町民税等
渉外費	90,000	70,718	19,282	慶弔費，諸会費，交際費等
雑支出	20,303	12,772	7,531	振込手数料
③　負担金支出	723,245	584,464	138,781	
国際青年会議所負担金	51,870	43,264	8,606	（13米ドル×166円）×35名
日本青年会議所負担金	225,000	232,500	△ 7,500	¥5,000×35名＋¥30,000（LOM）　出向者¥20000×1名
地区協議会負担金	67,500	39,500	28,000	¥1,500×35名＋基本金¥5,000　　出向者¥10000×0名
ブロック協議会負担金	210,000	150,000	60,000	¥5,000×35名＋¥35,000（LOM）
国際協力資金	63,875	47,450	16,425	¥1,825×35名
We Believe購読料	105,000	71,750	33,250	¥3,000×20名＋新入会員15名
④　他会計への繰入金支出	0	0	0	
一般会計からの繰入金	0		0	
基金会計への繰入金	0	0	0	
事業活動支出計	3,384,830	2,964,137	420,693	
事業活動収支差額	-104,820	-296,146	191,326	
Ⅱ　投資活動収支の部				
1　投資活動収入	0	0	0	
2　投資活動支出	0	0	0	
①　特定資産取得支出	0	0	0	
退職給付引当資産取得	0	0	0	
②　固定資産取得支出	0	0	0	
什器備品取得	0	0	0	
投資活動支出計		0	0	
投資活動収支差額	0	0	0	
Ⅲ　財政活動収支の部				
1　財務活動収入	0	0	0	
2　財務活動支出	0	0	0	
当期収支差額	-104,820	-296,146	191,326	
前期繰越収支差額	104,820	400,966	△ 296,146	
次期繰越収支差額	0	104,820	△ 104,820	

第５号議案（定款一部変更の件）

１．提案理由

（１） 男女が等しく働く社会となり、核家族化も進行する中で、夫婦が支えあって産前産後及び育児を行うことが社会的に求められています。当団体でも会員の出産と育児を尊重することで、JC 運動・活動に対する家族の理解を促進するとともに、男女が等しく活躍できる LOM になるため、次のとおり当団体定款を変更するものであります。

① 一般社団法人田村青年会議所定款第１６条第１項に出産前後及び育児に伴う休会について会費の免除を可能とする旨を定めたものであります。

２．変更の内容

変更の内容は、次のとおりであります。

（下線は変更部分を示します。）

現行定款	変更案
（休　会） 第１６条　正会員がやむを得ない事由により長期間出席できないときは、理事会の承認を得て、休会することができる。ただし、休会中の会費は免除しない。 ２．前項の事由により休会し、その事由の解消により復帰を希望する正会員は、理事会の承認を得て復帰することができる。	（休　会） 第１６条　正会員がやむを得ない事由により長期間出席できないときは、理事会の承認を得て、休会することができる。ただし、<u>出産前、出産後及び育児に伴う休会を除き</u>休会中の会費は免除しない。 ２．前項の事由により休会し、その事由の解消により復帰を希望する正会員は、理事会の承認を得て復帰することができる。

会員資格規定

第１章　目　　的

第１条　本規定は本会議所会員の資格及び入会希望者の取扱いに関する事項を規定したものである。

第２条　本会議所の会員は、正会員、特別会員、名誉会員及び賛助会員の４種とする。

２．定款第７条第１項のただし書きについては、１月１日に満４０歳に達した正会員も含むものとする。

第２章　入　　会

第３条　本会議所に正会員として入会を希望するものは、正会員２人の推薦により所定（様式－１及び様式－２）の入会申込書を提出しなければならない。

第４条　前条の推薦者の資格は、次の各号の通りとする。

（１）　入会後満１年間以上経過している者で前年度の例会出席率６０％以上の者

（２）　被推薦者に対して３年間の義務履行の連帯保証が出来る者

第５条　理事会は、入会資格審査を会員開発の担当委員会へ委託する。

第６条　会員開発の担当委員会は、推薦者並びに入会希望者に面接するとともに入会資格の適否を審査し、その結果を理事会に答申する。ただし、入会資格の審査期間を３ヵ月以内とする。

第７条　理事会は、答申に基き審査し、入会の適否を決定する。

入会の諾否は、理事長が推薦者並びに入会申込者に書面で通知する。

第８条　入会を承諾された者は、入会金の納入をもって正会員となる。ただし、入会承認後１ヵ月以内に入会金会費等の納入をしない場合はこの限りでない。

第３章　会　　費

第９条　定款第１１条に定める入会金並びに年会費は、次の通りとする。

入会金	正会員	金	３０,０００円
	特別会員	金	３０,０００円（終身会費とする）
年会費	正会員	金	１００,０００円
	賛助会員	金	５０,０００円（一口以上）

２．正会員は、２年目以降、毎年１月末日までにその年会費を納付しなければならない。

３．特別会員は、会員になりたる時より２ヵ月以内にその会費を納入しなければならない。

４．賛助会員は、毎年１月末日までにその会費を納入しなければならない。ただし、年

度途中入会の場合は、その入会のときとする。

第４章　会員の失格

第１０条　定款第１４条に定める行為があった時は、会員開発系の担当委員会が実情を調査して理事会に報告する。

第１１条　年会費を所定の納期までに納入しない会員に対しては、財務を担当する理事は勧告を行い理事会に報告しなければならない。

第１２条　例会及び委員会に対して欠席が連続５回におよんだ会員の所属委員長は、会員に対して勧告を行い、勧告後１ヵ月以内に適切なる善処の意思表示及び行為のない場合は理事会に報告する。

第１３条　前条並びに第１０条及び第１１条の報告を受けた理事会は、当該会員の過去の状況等を勘案し、理事会の議決を経て、総会においてその議決により退会せしむることができる。

第５章　休　　会

第１４条　正会員が長期の病気又は海外出張等により、例会、委員会その他一切の行事に出席不可能の場合は、休会することができる。ただし、この場合正会員は、休会届（様式－６）を理事長に提出し、理事会の承認を得なければならない。

２．正会員が出産前、出産後及び育児に伴い休会を申し出て、理事会の承認を得た場合、承認された翌年度の会費を年額最大６０，０００円減額することができる。金額は休会した月数に５，０００円を乗じた額とする。

３．前項を除く事由での休会中の会費は、これを免除しない。

４．総会を含む正会員としての権利と義務は有する。

第１５条　前条の休会の期限は、１年間以内とする。ただし、理事会においてこれを延長することができる。

第６章　特　別　会　員

第１６条　定款第７条の有資格者で特別会員を希望する者は、所定（様式－３）の入会申込書を提出し、所定の入会金を納入したのち特別会員になることができる。

第１７条　特別会員は、本会議所の総会及び例会に参加できる。ただし、一切の表決権及び選挙権並びに被選挙権を有しない。

第７章　名　誉　会　員

第１８条　本会議所の正会員及び特別会員でない者で、本会議所の設立発展に功労のあったものは、理事会の推薦により名誉会員となる。

第１９条　名誉会員は、本会議所の総会及び例会に参加できる。ただし、一切の表決権及び選挙権並びに被選挙権を有しない。

第８章　賛　助　会　員

第 20 条　本会議所の趣旨に賛同し、その事業の発展を助成することを望む個人、法人及び団体は理事会の決定により賛助会員として入会することができる。ただし、会費を納入しないときは退会とする。

２．会員資格は１年間限りとする。

第２１条　賛助会員を希望する者は、所定（様式－４）の申込書を理事会に提出する。

第２２条　賛助会員は、本会議所の総会及び例会にその都度実費を支払い参加することが出来る。ただし、一切の表決権及び選挙権並びに被選挙権を有しない。

第９章　顧　　問

第２３条　顧問は、理事会の承認を経て、置くことができる。

２．本会議所の活動に対して適切な指導又は助言を与える者で、原則として任期は１か年とする。ただし、再任は妨げない。

３．顧問は、無報酬とする。

細　　則

第２５条　本規定の施行に関する細則は、理事会の議決を以って定める。

附　　則

本規定は、１９４４年９月２２日より施行する。

本規定は、２０１３年４月１日より施行する。

本規定は、２０１４年１月１日より施行する。

本規定は、２０２０年１月１日より施行する。